

腎臓専門医研修ネットワークプログラム 透析専門医研修ネットワークプログラム

1 はじめに

プログラムリーダー 静岡県立総合病院 副院長 兼 腎臓内科部長 森 典子
静岡県の中部地区の腎臓専門医、透析専門医を 取得しながら、腎臓内科医としての専門性を極めていくためのプログラムです。

それぞれ特徴のある7施設が結集して経験豊かな研修ができるようサポートしていきます。施設ごとの特徴を踏まえて研修希望施設を選択し、不足のない臨床経験を積んでください。

専門医獲得だけでなく、臨床研究も積極的に行い、その成果を地域の研究会にとどまらず全国規模の学術集会で披露することも支援します。

ともに腎臓学を研鑽し、その発展に寄与していきましょう。



2 目的

優秀、有用な腎臓医、透析医を育成し、地域の医療への貢献だけでなく、日本の腎臓学に貢献することを目標とします。

3 特徴

- 1) それぞれ特徴をもった下記の8施設の共同プログラムであり、その中から研修施設を選択することができます。
- 2) 腎臓専門医および透析専門医を取得するために必要な経験できるプログラムを用意します。

4 研修カリキュラム

日本腎臓学会の『腎臓専門医研修カリキュラム』および日本透析学会の『透析専門医研修カリキュラム』に準じます。

希望によって浜松医科大学第一内科腎臓グループでの研修も可能です。

研修目標は下記のとおりです。

- ① 内科学会認定医もしくは外科学会認定医、小児科学会専門医、泌尿器科学会専門医を取得後、日本腎臓学会専門医および日本透析学会認定医を取得すること
- ② 医療に貢献できる有能、有用な医師になること

参 考

日本腎臓学会腎臓専門医取得申請資格

- 1) 医師免許
- 2) 日本腎臓学会会員歴5年以上
- 3) 日本内科学会認定医取得後3年以上
日本小児科学会専門医取得後1年以上
日本外科学会専門医取得後1年以上
日本泌尿器科学会専門医取得後1年以上
- 4) 日本腎臓学会が指定する研修施設で別に指定する研修カリキュラムに基づく研修3年以上
- 5) 日本腎臓学会が指定する症例要約の提出

日本透析医学会専門医取得申請資格

- 1) 医師免許
- 2) 日本透析医学会の会員歴3年以上
- 3) 日本内科学会認定医、日本小児科学会専門医、日本外科学会専門医、日本泌尿器科学会専門医または麻酔科学会指導医の資格を有し、5年以上の臨床経験を有する者。(ただし、初期研修医の1年間は含まない)
- 4) 日本透析医学会の認定施設または教育関連施設において3年以上研修
- 5) 日本透析医学会の指定する症例要約の提出
- 6) 学会出席並びに業績で30単位

5 研修例

1年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	静岡県立総合病院 または 静岡市立静岡病院											
2年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	静岡県立総合病院 または 静岡市立静岡病院											
3年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	焼津市立総合病院、静岡赤十字病院、静岡済生会病院、島田市立病院から選択											
4年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	焼津市立総合病院、静岡赤十字病院、静岡済生会病院、島田市立病院から選択											
5年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	上記病院および藤枝市立総合病院から選択						◎専門医資格認定試験					

6 研修病院群 (50音順)

1) 静岡県立総合病院 副院長 兼 腎臓内科部長 森 典子

腎臓内科医が経験すべき疾患のほぼ全てを網羅できる腎臓内科を自負しています。検尿異常から腎移植（年間5-15例程度）を含めた腎代替療法、さらに腎疾患患者に見られる多くの合併症を自科内もしくは他科と協力しながら診ることができます。ブラッドアクセス、ペリトネアルアクセスの作成、修復、管理も腎臓内科の仕事として行っています。

地域の中核病院の一つであり、症例は豊富で、腎臓内科医歴が30年となった私でさえいまだに驚くような症例を見ることもしばしばで、臨床経験にはこと欠きません。一緒に考え、一緒に解決していくプロセスを楽しんでいただける環境が整っています。

そのような豊富な症例をバックに、当科では両学会の資格要求が満たされるように後期研修プログラムを作成して、経験の不足を補うような指導体制を敷いて指導しています。まずは内科認定医を取得していただき、専門医にむかって突き進んでいただきたいです。

さらに、臨床研究部があり、臨床研究の様々な支援を行っています。他施設共同研究を受けるだけでなく、自ら臨床で感じた疑問などからテーマを決めて研究デザインを練りあげ、実施し、その結果を発表していただきます。

なお、1学年20-23名の臨床研修医の教育機関でもあり、研修医教育にも参加していただきます。後期研修で得た知識の整理をする機会にもなりますので、教育者としての研鑽も積んでいただけますのでよろしくお願い致します。

2) 静岡済生会総合病院 腎臓内科部長 戸川 証

当院の腎臓内科では常勤スタッフ5名と非常勤医2名が診療にあたっています。腎生検による腎疾患の診断、治療、慢性腎不全の治療、血液透析、腹膜透析療法の導入、管理など、腎疾患に関連する幅広い診療を行っています。さらに維持透析、急性期血液浄化、バスキュラーアクセス作製、維持は基本的に腎臓内科がすべて担当しています。また、他科から、腎不全や電解質異常について、多くのコンサルテーションがあります。腎生検を行った全症例について病理の検討会を行っています。

入院患者の治療方針については上級医との日々のディスカッション、週1回のカンファレンスで決定しています。週1回の抄読会や、内科地分会、日本腎臓学会、日本透析医学会での発表などで、1つの症例やテーマについて深く学習することも積極的に行ってもらいます。

3) 静岡市立静岡病院 腎臓内科長 血液浄化センター長 松本 芳博

小さなグループですが中身は決して薄くありません。科長以下4名の医師で腎移植以外の腎関連領域をすべてカバーします。専攻医は急速進行性腎炎・ネフローゼ症例を多数経験し、先進的な治療戦略を習得できます。末期腎不全に対しては血液透析・腹膜透析の導入・管理法のすべてを学習します。スタッフ数の割に透析導入数、シャント術件数が多いため、専攻医はかなりの経験を積むことになります。

3年務めた場合は、仕事のできる腎臓透析医兼シャンター（シャント術者）となっています。

4) 静岡赤十字病院 内科部長(腎臓専門) 久保田 英司

○腎臓内科と総合内科の二部構造

当院では臨床研修制度発足の際に研修医教育の場を設けるために、腎臓内科が中心となって総合内科を立ち上げた経緯がありました。そのため、現在に至るまで腎臓内科と総合内科の二部構造をとっているのが当院の特徴となっています。

○腎臓内科

病院の実績にも示しますように、移植および腹膜透析以外の腎疾患症例は豊富です。特徴的であるのは、総合内科も兼ねていることもあり透析以外の血液浄化療法（血漿交換・白血球除去療法・エンドトキシン吸着）が豊富なことです。スタッフの人材不足の問題から現在は腹膜透析症例数は極めて少なくなっていますが、数年前は常時20名程度の患者を管理していました。腹膜透析のノウハウはあるため人材がそろい次第、再び腹膜透析にも力を入れたいと考えています。腎臓内科としての年間入院患者数は、約300例です

○総合内科

Common disease を対象に研修医教育を行うために、感染症・膠原病に加え、中等度までの呼吸器疾患・消化器疾患・内分泌疾患・心不全の管理を行っています。これら症例の年間入院患者数は1000例になりますが、これを腎臓内科常勤医1名・膠原病科専門医2名・総合内科専門医3名・後期研修医（レジデント）2名の8名と初期臨床研修医約2名で担当しています。

○診療体制

腎臓内科・総合内科ともに、指導医・後期研修医・初期研修医の屋根瓦方式で担当しています。上記受け持ち入院患者は多いように感じるかもしれませんが、仕事は分担され活発な討論(Brain storming)を主体に医療を行うため、症例数の割に仕事による疲労感は少なく、患者サイドはもとより医療サイドとしても満足のいく医療が行えます。初期研修医は1学年12名程度でモチベーションの高い人材が揃っており、このことも活発な討論(Brain storming)が行える素地となっています。また、内部のみならず外部からも講師をお招きし教育的講演を定期的に開催していることも当院の魅力の一つとなっています。

○当院における当プログラムの適応

上記のような特徴を活かし、当院における「腎臓・透析専門医研修プログラム」のカリキュラムは、①必要条件としての腎臓内科研修②個人の希望により軽重をつけた総合内科研修の並行を考えています（もちろん①にのみ専念でも結構です）。幅広い分野の症例を経験やCommon diseaseをしっかりと見られるような機会は専門科に入ってしまうとなかなか遭遇できません。このことに対する価値観は個々で異なってくると思いますが、当院では（少々忙しくなりますが）腎疾患の研修を行いながらこのような機会を提供できるものと自負しています。また、この体制は「新内科専門医制度」を申請するに当たり、幅広い分野の疾患を経験できるという点でも他には無い大きなアドバンテージである事を協調しておきます。

5) 市立島田市民病院 腎臓内科主任部長 野垣 文昭

当院腎臓内科スタッフは4名で診療にあたっています。腎生検は、年間30例前後、慢性腎炎や急速進行性腎炎、ネフローゼ症候群、急性腎不全症例など多彩です。病理医も参加した腎生検病理カンファレンスを行い、さらに必要に応じ電子顕微鏡所見も検討し、診断を確定しています。

IgA腎症に対するステロイドパルス療法、ネフローゼ症候群に対するLDLアフェレーシス、そのほか急性腎不全等に対するCHDFなどの急性期血液浄化療法、慢性腎不全に対する血液・腹膜透析導入、パスキュラーアクセス作成・PTA、慢性期の透析管理を行っています。

カンファレンスに関しては、腎臓内科および透析カンファレンスをそれぞれ行い、診療の統一を図っており、抄読会も施行し最新の知識を獲得するよう努めています。さらに診療の成果を積極的に腎臓学会や透析医学会に発表しています。

6) 藤枝市立総合病院 副院長、腎臓内科長、人工透析室長 山本 龍夫

当院は急性期および専門医療を担う 35 の診療科と 564 の入院病床を有する総合病院で、平成 27 年 4 月には救急センターを新規開設します。腎臓内科は平成 26 年度から常勤医体制となり、原発性腎疾患から糖尿病、高血圧、膠原病、血管炎などに関連した続発性腎疾患に至る幅広い分野の腎臓病診療を、腎生検での病理診断も含め、総合内科やリウマチ科とも連携して担当しています。

透析診療は、腎臓内科、泌尿器科、血管外科の連携による透析導入、維持透析管理、自己血管内シャント造設、人工血管（グラフト）留置、動脈表在化、PTA、CAPD はもとより、救急室経由や入院患者の AKI (acute kidney injury; 急性腎障害) に対する診療を、持続的血液濾過透析 (CHDF)、血漿交換 (PE)、血漿吸着 (PA)、血液吸着 (HA) などの急性期の血液浄化療法に至るまで、内科系から外科系に渡る院内のチーム医療の一員として診療にあたっています。

近年、CKD (chronic kidney disease; 慢性腎臓病) における CVD (cardiovascular disease; 心血管系疾患) の合併が心腎連関として注目されており、CKD や維持透析患者の診療において CVD への対策が生命予後を大きく左右します。この点についても当院は循環器内科、血管外科、心臓外科が充実していますので、CKD や維持透析患者の CVD 合併症に対する専門医療の研修ができます。

地域医療の分野では志太医師会と CKD 病診連携、市民の方々や地域の医師、医療関係者を対象にした研究会、講演会を積極的に行っており、院内では看護師、管理栄養士を交えた CKD 指導と栄養指導体制を構築しています。

このような日常の医療における指導は勿論のこと、学会、研究会にも積極的に参加、発表し、学会報告や論文をまとめることも含めて腎臓専門医、透析専門医への集学的な研修が出来るよう努めます。

7) 焼津市立総合病院 腎臓内科長(感染管理室長) 大浦 正晴

平成25年度より常勤医5名とスタッフがさらに増員されました。昨年度より腎臓内科スタッフ増員に伴い、透析導入患者(特に合併症の多い方)、維持透析患者の管理を当科も担当しています。毎週、泌尿器科医師と共に血液浄化室カンファレンスを行い、両科が協力して血液浄化療法を行っています。

また、当科は当病院の中で総合内科領域も担当しています。内科系のカンファレンス、勉強会も週1回開催しています(臨床研修医指導も兼ねています)。

年間入院患者は500人程度です。

症例数(平成25年度) 腎臓疾患 200例/年 腎生検 30例/年 透析導入20例/年

指導医 菱田 明 池谷 直樹 大浦 正晴

一昨年まで10年間は科長一人のみでしたが、昨年から入院と救急対応は大浦と常勤医師(4年目)の二人が腎臓内科を担当し、外来はさらに菱田医師と常勤医師二人が加わって行っています。

当院では泌尿器科が慢性腎不全の透析導入を行っていますが、導入患者も経験できます。

今後の方針としては腎臓内科に総合内科の部分を加えていく方針となっています。

症例数 腎臓疾患に関する入院 約100例/年(ここへ一般内科入院が60例あり)

腎 生 検 15例/年

透 析 導 入 約10例/年

(急性腎不全、高K血症、急速進行性腎炎 著しく全身状態の悪い慢性腎不全)

指 導 医 菱田明(腎臓学会指導医、専門医 透析学会指導医、専門医)

大浦正晴(透析医学会専門医)

7 病院群の実績

各専門医研修に必要な症例数等を掲載しますが、実績は原則として、平成25年度（25.4～26.3）の年間実績とします。（藤枝市立総合病院は平成23年度の年間実績）

病院名	静岡県立総合病院	静岡市立静岡病院	静岡赤十字病院	静岡済生会病院	焼津市立総合病院	市立島田市民病院	藤枝市立総合病院
日本腎臓学会研修施設	○	○	○	× ○	○	○	×
◎日本透析医学会研修施設（○教育関連施設）	◎	○	×	○	○	○	○
<u>入院患者数</u>							
慢性腎不全	412	>150	104	128 168	120	165	48
急性腎不全	3	26	12	4 5	20	10	9
慢性糸球体腎炎	55	32	15	13	15	11	14
急速進行性腎炎	12	7	9	1	15	1	0
急性間質性腎炎	23	>5	3	4 4	0	4	0
膠原病	15	0	9	1	2	0	0
悪性高血圧	0	0	2	0	0	0	0
高血圧	1	0	10	0	0	0	7
電解質異常	13	18	20	40	20	0	2
被膜性腹膜硬化症	0	0	0	0	0	0	0
<u>検査 治療件数</u>							
腎生検	107	40	20	16 7	30	30	3
新規透析導入	92	57	20	49 60	20	54	23
急性血液浄化療法	451	>150	86	9	10	60	107
腹膜透析患者数	7	20	0	5 4	0	18	0
ブラッドアクセス手術数	235	210	26	13 594	0	80	36
腎移植件数	7	0	0	0	0	0	1

表の書式変更

表の書式変更

※>は「以上」を意味する。

8 研修参加者の要件及び処遇

募集人員 2～3名

1) 要件

- 採用 書類審査及びプログラム運営委員による面接を行い決定。

2) 処遇

- ①身分、②給与、③福利厚生制度、賠償責任保険、休日等、宿舍、学会費用

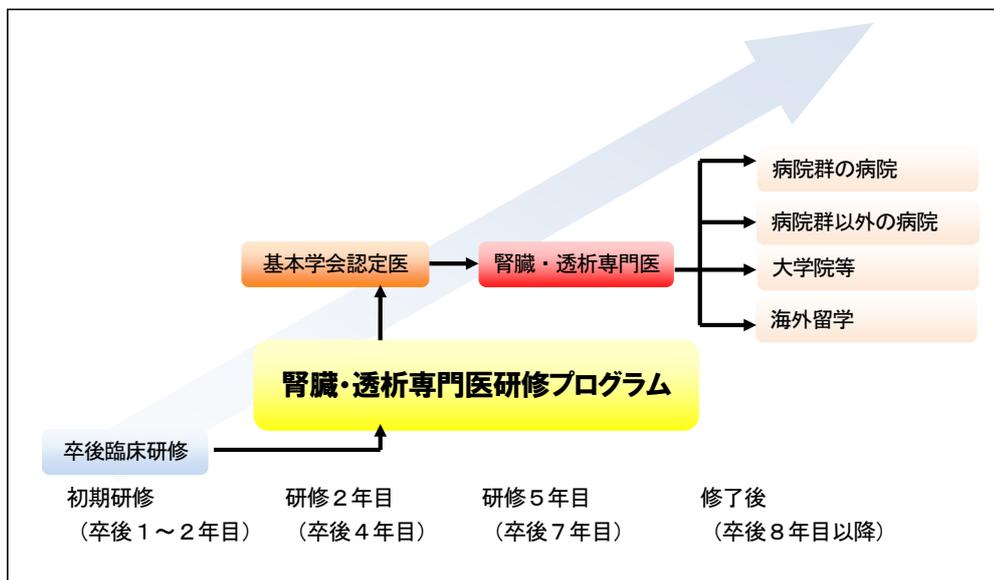
※プログラム上は当該コース（制度）に沿った研修を受けていただきますが、

身分や給与等の処遇は研修を受けるそれぞれの病院の規定によるものとします。

9 研修終了後の進路

- (1) 病院群の病院へ就職
- (2) 病院群以外の病院への就職
- (3) 大学院等への進学
- (4) 国内・海外留学等

プログラム参加者のキャリアプラン



10 プログラム運営委員(◎:プログラムリーダー)

1) ◎静岡県立総合病院 副院長 兼 腎臓内科部長 森 典子

日本腎臓学会認定 腎臓専門医、指導医、学術評議員
日本透析医学会認定 透析専門医、指導医、評議員
日本臨床腎移植学会 認定専門医、評議員
日本急性血液浄化学会 認定専門医

多彩な腎疾患の病態および治療法をともに経験していただき、全人的医療を行うことのできる医師になっていただくことが当院での後期研修の目的です。常に疑問を感じ、向学心をもって勉学に取り組み、診療に反映できる医師になり、さらに社会貢献も視野に入れることのできる医師になってください。



2) 静岡済生会総合病院 腎臓内科部長 戸川 証

日本腎臓学会認定 腎臓専門医
日本透析医学会認定 透析専門医、指導医

腎臓内科医としての研修を勢いよくスタートし、研修期間で専門的診断能力、技術が身につけられるようにスタッフ一同全力でサポートします。また、生涯医師として仲間と充実した仕事を続けるためのコミュニケーション能力も引き続き磨いていってほしいと思っています。



3) 静岡市立静岡病院 腎臓内科長 血液浄化センター長 松本 芳博

日本腎臓学会認定 腎臓専門医、指導医
日本透析医学会認定 透析専門医、指導医

人生の中のわずかの期間、我々と共に働くことで社会貢献し、腎臓病学を学ぶことで知的満足を得ましょう。先輩たちの後についていけば、必ず魅力的な腎臓・透析専門医に成長できます。



4) 静岡赤十字病院 内科部長(腎臓専門) 久保田 英司

日本腎臓学会認定 腎臓専門医
日本内科学会 認定医

専門知識・手技を最大限生かせる、問題解決力を持ち合わせた人材に育ってほしいと考えています。そのためには、各自の努力は当然のことながら他者とのBrain storming が大きな力を発揮すると考えています。また、このことは他人を育てることも、患者に最善を尽くすことも、社会的正義を貫くことも意味しています。Brain stormingの際には、年齢・ポジションに関係なく自由に行える環境を維持していきます。一緒に、知的ゲームを楽しみましょう。



5) 市立島田市民病院 腎臓内科主任部長 野垣 文昭

日本腎臓学会認定 腎臓専門医、指導医、学術評議員
日本透析医学会認定 透析専門医、指導医

当院は、島田・川根地域内の唯一の急性期病院であり、同地区およそ10万人余りの医療を一手に引き受けております。高齢化ならび合併症をもった患者さんの増加により診療内容は腎臓内科分野に留まらず、全般的な医療を必要とする状況になっています。自らの研修に加え、地域医療への貢献も先生方に期待したいです。



6) 藤枝市立総合病院 副院長、腎臓内科長、人工透析室長 山本 龍夫

日本腎臓学会認定 腎臓専門医、指導医、評議員、編集委員会委員、
Clinical Experimental Nephrology Associate Editor
日本透析医学会認定 透析専門医、指導医
日本内科学会 認定内科医、総合内科専門医
日本高血圧学会認定 指導医
浜松医科大学臨床教授
臨床研修指導医



当院は自らの専門分野に対する熱い思いを持ったスタッフが内科系から外科系に渡る多領域で協力体制を構築して急性期医療と専門医療を行っています。当院で腎臓病と透析医療に関する様々な疾患を研修する過程で、課題にぶつかり、指導医と共に悩み、努力で乗り越えていく経験を通じて、疾患の本態を見極める努力を怠らず、最新のエビデンスで最良の医療に務める“考える医師 scientific physician”として、自ら学ぶ姿勢を生涯持ち続ける豊かな人間性を持った腎臓専門医、透析専門医に育ってほしいと思っています。

7) 焼津市立総合病院 腎臓内科長(感染管理室長) 大浦 正晴

透析医学会認定透析専門医

当院での研修では腎臓内科としての専門的医療の習得はもちろんですが地域の急性期病院として多彩な内科疾患が経験できます。さらに地域住民の健康増進などの役割も当院は担っております。地域医療と専門医療の両者に興味のある方をお待ちしています。

